

# HOTNET PRESS

2011.8.30 107-108号合併号

特定非営利活動法人ほっとねっと

理事長 伊藤 浩

〒630-8301 奈良市高畑町1202-7

TEL&FAX 0742-94-6800

Email: npohotnet@yahoo.co.jp

http://hotnet.grupo.jp/

## 2011年総会

7月11日

県社会福祉総合センター

まず急遽お願いした中野博章さんに関会のご挨拶をいただき、総会成立確認後、議案の審議に入りました。まず前年度の事業報告として、ほっとねっとの活動は引き続き「持続可能な社会づくり」をテーマに維持・継続・発展させてきており、これまで同様「IT推進」「ひーとびーとの森」「水平社博物館ガイド」「人権研修(ワークショップ)」「アースデイ開催・菜の花プロジェクトなど環境分野の活動」「若者自立支援」といった一言で言えば「場作り」に取り組んできたこと。その中でも当年度の特徴として、「人権研修(ワークショップ)」をさらに充実させるべく、CSR講座実施の経験や、今まで培ってきたESD

(持続可能な開発教育のための国連10年)などを踏まえながら、県の委託事業として多様性を尊重するためのプログラムづくりと啓発リーフレット作成(「人権研修の教材等開発事業」)を行ったことが報告されました。また、情報発信としてはHOTNETPRESSの月1回の発行、メールマガジンの不定期発行に加えてHPもリニューアルしたこと。震災被災地支援関係では、御杖村内にカンパを設置し、岩手県の「みちのくみどり園」へのカンパに。また、事務所に集まった物資とカンパは奈良県中小企業家同友会を通して被災地に届けられたこと。そして、印刷済み未利用封筒のリサイクルの取り組みや作業所での物品購入など、障害者自立支援につながることを意識的に行っていることも付け加えられました。

続いて今年度の計画について、「ひーとびーとの森」については夏休み期間中の「山と森林の月間」イベントのことや今年で借り上げ期限が終了すること。「人権研修(ワークショップ)」は県の委託事業として100回の開催予定であること。

「IT推進」は昨年度から公民館などでのパソコン教室の依頼が減ってきており、他NPOからの受注などはあるものの、要約筆記、デザインなども含め、新規開拓をしていく1年であること。「水

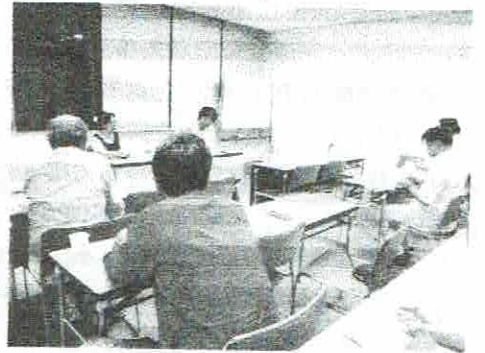
平社博物館ガイド」は、実績の増えた前年度同様の安定した

依頼が見込まれることと、昨年からはじめている上級者研修を引き続き定期定期に実施し、さらなるブラッシュアップにつとめることと、人材確保を進めていくこと。「若者の自立支援」では、事務所多目的スペースを「居場所」として電話番号をしながら当事者に過ごしてもらい、将来の自立につなげてもらいたいこと。また高校などからインターンシップの受け入れを積極的に行うなど、次世代の人材育成への協力を重視すること。環境分野や虐待防止プログラムなど他団体との連携、つながりを強化していくこと。などが述べられました。

これらの提案を踏まえ自由討議に入り、「ひーとびーとの森」について、借り上げ期限の切れる来年以降、5年間を目処に契約更新したいこと。ほっとねっととして「高校授業料無償化から朝鮮学校除外の動きに反対」と「脱原発、自然エネルギーへのシフトに向けたアクションへの連携」していきたいこと。人権ワークショップを100回開催するために、学校訪問や「ならヒューライツニューズ」での発信など広報活動にメンバーが協力すること。などが提案されました。

これら、前年度事業報告、今年度計画、自由提案が一括して承認され、今後も、NPO全体の方向性の検討を続けていくことを確認して閉会となりました。

今年度も皆さまのご指導、ご協力をお願いいたします。



2010年度の取り組み総括

(1)概要 「持続可能な社会作り」をテーマに維持・継続・発展

「IT推進」「ひーとびーとの森」「水平社博物館ガイド」「人権研修(ワークショップ)」「菜の花プロジェクトなど環境分野の活動」「若者就労支援」にこれまで同様、継続的に取り組んできた。これらは一言で言えば差別のない社会に向けた「場作り」をしてきたといえる。活動内容は違っていても、一人ひとりが大事にされる雰囲気の中で、参加体験型の生き生きした学びや遊び、情報やコミュニティを提供するというスタンスは同じである。前年度のCSR講座実施の経験や、今まで培ってきたESD(持続可能な開発教育のための国連10年)などを踏まえながら、参加体験型人権研修(ワークショップ)をさらに充実させるべく、県の委託事業として「多様性を尊重するためのプログラムづくりと啓発リーフレット作成」事業を行った。

(2)人権のためのIT推進

[PC教室]

1. 事務所にて個人に対するPC教室 4月～3月のべ7回
2. 個人に対する出張PC教室 5月～3月のべ40回
3. DV被害者支援のためのPC教室(奈良市内)11月～2月のべ8回
4. 桜井北人権文化センター デジカメ教室 2月のべ4回

[広報デザイン・要約筆記]

1. 差別をなくす県民集会(7月31日)
2. 奈良県人権・部落解放研究集会(9月18日)
3. 合同識字交流会(12月4日)

(3)人権啓発事業

公募提案型 奈良まほろばふるさと雇用再生特別対策事業「人権研修の教材等開発事業」

(県民一人ひとりの人権が尊重される自由で平等な社会作りに向けて、誰もが暮らしやすい社会を実現させるために欠かせない「多様性尊重」、さらに「多様性活用」のための研修プログラムの開発と、普及のための啓発リーフレット作成)

◎「企業編」プログラム作成のための検討会議実施

- ・1回目:11月12日 企業向けの人権研修と多様性活用プログラムの概要(4人)
- ・2回目:12月2日 国際規格の中の人権について(4人)
- ・3回目:12月3日 研修内容の検討(15人)
- ・4回目:2月2日 研修内容の検討とプログラムの内容検討(12人)
- ・5回目:2月28日 試験ワークショップの中身の検証プログラムの文言、編集など検討(6人)

◎「地域・家庭編」プログラム作成のための検討会議実施

- ・1回目:12月4日 研修内容の検討(3人)
- ・2回目:1月6日 研修内容の検討とプログラムの中身検討(3人)
- ・3回目:1月15日 プログラムの内容検討と試験ワークショップ打ち合わせ(3人)
- ・4回目:2月3日 プログラムの内容検討と試験ワークショップ打ち合わせ(3人)
- ・5回目:2月22日 試験ワークショップ検証(6人)
- ・6回目:3月11日 プログラムの中身打ち合わせ(4人)
- ・6回目:3月18日 プログラムの文言、編集など検討(4人)
- ・7回目:3月22日 研修内容、プログラム内容など総まとめ(3人)

◎試験ワークショップの開催

- ・2月14日(13人)

(4)水平社博物館ガイドボランティア

ガイド実績は、館内ガイド:164回(158団体)3057人、周辺フィールドワーク:127回(115団体)2348人であった。前年実績、館内が138回(129団体)2595人、周辺フィールドワークが110回(105団体)2045人を上回った。また、1人ガイド仲間が増え、さらに2人がガイド研修を開始、デビュー予定である。レギュラーメンバーはいずれも夜間中学にかかわるなど解放運動の担い手であり、熱の入った案内を提供、運動の歴史に対する評価機能を持つまでになっていると自負しているところである。さらなるブラッシュアップの必要性を共有し、定期的な学習会の企画を始めたところである。

(5)ひーとびーとの森

夏休み期間中には、8月1日と8月29日に、「山と森林の月間」参加行事として工作教室や飯ごう炊さん、蒔割り体験をプレイパーク(自由遊び)を実施した。また団体客(7月25日・アプリコットファミリー、8月22日・曙中学生友の会・鳥見遊び隊)などの受け入れを行った。晩秋の11月13日にはネイチャーゲームと芋煮なべ料理、3月13日には飾り炭づくりを開催した。その他、年間を通して小グループの利用があった。

管理面では、ほぼ毎週土曜日を中心に50回余り草刈りや用具整備、施設整備などにあたった。

#### (6)環境～持続可能

1. アースデイなら South・・・4月18日に開催。5回目。北和は奈良公園で開催されるアースデイと同日開催であった。ならコープのアースデーもあわせ、3つのアースデイで「ハンカチメッセージ」を共同企画するなど連携を深めている。

2. 菜の花プロジェクト・・・4月25日菜の花まつり、5月31日刈り取り、6月7日さつき園による廃油回収、夏の田植え・草刈作業、10月7日菜の花報告会、10月16日稲刈り取り、10月23日菜の花種まき、11月1日田原本北小学校で搾油体験、など引き続き循環型社会づくりの啓発事業として地道な活動を、磯城野高校、コープ自然派奈良、青少年自立援助センターブルームなどと連携しながら継続し、高校にバイオ燃料プラントが導入されるなどの発展をみせている。また、奈良県人権部落解放研究集会にて、米粉ドーナツの店を出店した。

3. きんき環境館パートナーシップ事業・・・あおぞら財団、ごみゼロネット大阪と共催で廃油の利活用についての学習・意見交換会を行った。12月18日廃油キャンドルづくり、3月5日廃油石けんづくり。

4. 県の委託事業での啓発事業は ESD や社会的責任規格「ISO26000」に基づいたものとして行っている。

#### (7)就労支援

事務所の多目的スペースで、家に引きこもっていたが、社会参加に意欲的になってきた若者を受け入れ、パソコンの自習などをして過ごしてもらっている。就業などの次のステップにいかにつなげるかと、若者同士の仲間作り支援が課題。

#### (8)その他

1. HOTNET PRESS の月1回の発行。メールマガジンの不定期発行。HPをリニューアル。

2. 他のNPO団体や企業、運動体との連携について、その広がりによって一定の評価を得ており、国や県、民間の助成事業などの協働が進んでいる。

#### 3. 震災後復興支援

カンパ・支援物資提供など(3月)

・御杖村にて募金箱設置・・・みちのくみどり園へのカンパの一部に

・奈良県中小企業家同友会・・・被災地への物資提供とカンパ

#### 4. その他支援など

・再生封筒プロジェクト

・作業所の物品購入

#### 2011年度の予定

・森・・・山と森林の月間などイベント、施設管理(今年で10年の借上げ期限が終了)

・ワークショップ・・・委託事業100箇所での啓発

・PC教室・・・新規開拓(ワークショップと同時に開拓?)

・博物館ガイド・・・人材確保、上級者研修、特別入館券販売

・就労支援・人材育成・・・インターンシップの受け入れ

・震災後復興支援・脱原発関連

(環境エネルギー政策研究所・・・自然エネルギーでの復興支援へのカンパ)

(災害支援ネット-被災者受け入れ)(nara-action 原発いらんアクション)

・高校授業料無償化から朝鮮学校除外の動きに対する反対

・FACEBOOK、USTREAMなど新しいメディアでの発信

・環境分野でNASO&NPOセンターとの協働事業

・森田ゆりプログラム 協働・連携の検討

・アースデイ

・全体的な方向性の検討

5月21日(土)奈良女子大学で、アースデイ奈良2011実行委員会・とおく&らいぶカフェ葉音共催の講演「今だから考えたい 原発のこと、未来のこと」(講師:京都大学原子炉実験所 小出裕章さん)が開催されました。昨年から予定していた企画でしたが、300人余の参加者で会場はいっぱいになり、福島原発事故以降の関心の高さがうかがえました。



#### 講演要旨

- 原子力発電でやっていることは、火力発電同様、お湯を沸かすという、いたって単純なこと。200年前の産業革命で生まれた蒸気機関である。
- 原子力が危険な理由は、燃料のウランを燃やす(核分裂させる)と、死の灰(核分裂生成物)ができるから。
- 100万kwの原子力発電所で毎日核分裂させるのは3kg。800gであった広島原爆の4発分である。1年間だと原爆100発分。
- 原子力発電のエネルギー利用効率はわずか33%。3kg核分裂させて1kg電気に変換。2kgを捨てる。
- 25年前の旧ソ連チェルノブイリ原子力発電所で起きたことは、稼働2年後の定期検査に入るために徐々に出力を下げ、完全に停止する直前の核暴走事故。
- モスクワの赤の広場に立てても安全といわれたが、事故が起これ、消火活動をした消防隊員31人が生きながらミイラになるようにして短期間で死亡した。
- 事故後まず、周辺30km圏内の住民13万5000人に、迎いのバスでの避難指示。その後300kmは離れた場所に強度の汚染見つか、3ヵ月後に20数万人の住民を強制的に避難させる。

- チェルノブイリの事故で、広島原爆800発分のセシウム137が放出された結果、放射線業務従事者以外立ち入れない「放射線管理区域」の面積は日本の本州の6割に相当。
- 事故をきっかけに、1991年にソ連は崩壊。その後は500万を超える人々が汚染地域で生活しているが、生まれ育った土地を追われて避難するのも苦痛。同じように、今回の福島原発事故により汚染された地域に人が住み続けることは望まないが、その土地を追われることは生活の崩壊を伴う。
- 福島原発で起きたことは発電所の全所停電(ブラックアウト)という、いたって単純なこと。地震発生時に核分裂反応自体は止めたが、原子炉内で7%発生している「崩壊熱」エネルギーを冷やすために、ポンプで水を送ることが停電により不可能になった。
- 自家発電が不可能な時に頼るべき外部からの電気も、地震による送電線被害で絶たれ、複数用意されていた発電所内の非常用発電機も津波でやられて発電不可能に。やむなく多数の電源車を現場に集めたものの、電力系統への接続場所が水没していたため使用不可。こうして電源確保は一切不可能に。
- 消防用ポンプで原子炉内に水を送ることになるが、2度と原子炉が使えなくなる海水投入の決断に時間がかかっているうちに、原子炉の損傷はますます進行。
- 福島原発事故収拾でやることはただひとつ、冷却のために原子炉に水を入れ続けること。しかし、入れ続けて溢れた水により、外部が放射能で汚染され、作業員をはじめ、人を被爆させる。すでにその水が9万トンたまったが、処理の方策見つからず。
- 原子炉を冷やす水を循環式にする必要あるが、大掛かりな工事になる。できるまでは水を入れ続けるために工事を妨害するという、地獄の状況。
- この事故の最悪のシナリオは、炉心が溶け落ちる「メルトダウン」。  
(※講演後「メルトダウン」と発表された)  
その時に、原子炉圧力容器という圧力釜に残っている水により水蒸気爆発が起こること。  
そして、最後の防壁「原子炉格納容器」の崩壊で、放射能の大量放出が起こること。
- 原子力安全委員会は、普通の人々の被曝限度を1年間1ミリシーベルトから20ミリシーベルトに引き上げるとしている。放射線業務従事者の被曝限度は通常1年間20ミリシー

## 朝鮮学校の高校無償化適用 手続き再開へ

民主党代表選の結果が大きな話題になっていた8月29日、菅首相が朝鮮学校への高校無償化適用手続きの再開を指示したことが新聞の片隅に報道されました。

もともと政府は、教育は政治から切り離すべきであるとの見方を示してきましたが、昨年11月、北朝鮮による韓国砲撃を受け手続きが中断されていました。マスコミは「事態が昨年11月以前の状況に戻った」との判断から再開が指示された、と報じています。

朝鮮学校は朝鮮のみならず、韓国、日本籍を持つ在日コリアンの、数少ない民族教育の場となっています。私たちは、日本が民族アイデンティティを奪い続けてきた過去の経過からしても無償化除外はおかしいと考え、集会や詩の朗読会などを開催してアピールしてきました。今回の菅首相の指示を強く「支持」するものです。

しかし、すでに一部政治家やマスコミから既に反論の声があがり始め、事態は予断を許しません。適用が決まるまで、注目していきたいと考えています。  
(理事長・伊藤満)



東日本震災チャリティコンサート  
(5月8日、奈良朝鮮学園講堂にて)

## リサイクル封筒販売中!

A4サイズが入る「角2」の再生封筒です。  
(檀原市内の「たけのこ園」さん制作)印刷済み未利用封筒の印刷部分に紙を上貼りし、とじ部分に両面テープつきです。1枚10円で事務所にて販売中です。送料別途で郵送可です。  
申込はほっとねっと TEL/FAX0742-94-6800 まで。

- ベルト、非常時100ミリシーベルトから、一気に250ミリシーベルトに。
- 放射線障害は「急性障害」と「晩発性障害」の2種類あり。急性症状がでる最低の被曝量である「しきい値」以下の被曝でも、人体に悪影響あることは原爆被曝者の経験から明らか。2005年の米国科学アカデミー委員会の結論は「被曝のリスクは低線量にいたるまで直線的に存在し続け、しきい値はない。最小限の被曝であっても、人類に対して危険を及ぼす可能性がある」
- 福島原発事故後、各地で空間ガンマ線量が増加。政府が言うように「ただちに影響が出るレベルではない」がやがて影響が出てくる。これが「晩発性障害」。
- 放射線により、遺伝情報に傷がつき、狂った遺伝情報が複製される。生命活動の活発な子どもほど放射線感受性が強く、被害が大きい。1年間の被曝限度が20ミリシーベルトに引き上げられれば、通常時の100倍近い危険を子どもに押し付けることになる。
- チェルノブイリ原発事故後、日本はセシウム134、137の合計370ベクレル/kg以上は国内に入れないという輸入規制を実施。原発と引き換えに農業・漁業が衰退した日本。その上事故でさらに農業・漁業は崩壊させているのが今の事態。
- 「原子力は安全」としてきた国・電力会社・巨大産業群だけでなく、騙された者にも責任がある。責任のない子ども達を被曝から守るため、汚染した食料は大人が引き受けるべき。
- 現在日本では電力の28%を原子力で供給。発電所の設備能力では原子力は全体の18%。原子力での発電量が28%なのは火力発電所などのほとんどを停止させ、原子力発電所の設備利用率だけをあげているため。日本の発電所全体の年間の平均設備利用率は5割弱。つまり半分以上を停止させている(余っている)状態。
- 過去の実績を調べると、最大電力需要量が火力&水力発電の合計以上になったことはほとんどなし。電力使用のピークが生じるのは1年のうち真夏の数日の数時間のみ。その時間だけ自家発電の融通、工業の操業時間の調整、クーラーの温度設定の調整などで十分乗り越え可能。
- 今こそ「知足」で一刻も早くエネルギー消費型の社会を改める作業を。

# 野次馬情報 掲示板

## ☆第38回奈良県人権・部落解放研究集会

「東日本大震災とまちづくり」

ー被災地と奈良をつなぐー

〔全体会〕

日時:9月17日(土)10:30～

場所:桜井市民会館

オープニング:琉球國祭り太鼓奈良支部

記念講演:「奈良から福島原発事故を考える」

ー放射能汚染にどう向き合うかー

(講師 京都大学原子炉実験所 助教 今中哲二さん)

リレートーク:

(出演)NPO 法人どうで 上田邦晶さん

曹洞宗 正福寺 葛城天裕さん

フリージャーナリスト 川瀬俊治さん

歯科医師 北村義久さん

(進行) 社会福祉法人ちいろば会 富田忠一さん

アクション

ときわぎジョイフルハーモニー

桜井遊ing ハーモニカクラブ

玄武(ディジュリジュ) 他

※バザー(昼食希望者は弁当を事前申込)、なんでも人権相談(事前申込要)

### 〔分科会〕

日時:9月18日(日)9:00～

場所:

第1分科会 桜井市立図書館(研修室1)

第2分科会 桜井市立図書館(研修室2・3)

第3分科会 桜井市役所(大会議室)

第4分科会 桜井市中央公民館(大会議室)

### (第1分科会)

医療や福祉分野を中心に「弱者支援」の課題と今後のあり方について考える。

パネリスト

上田 邦晶さん(NPO 法人どうで)

川口 洋子さん(奈良県医療政策部保健予防課)

小野寺美厚さん(NPO 法人ネットワークオレンジ)

コーディネーター

村上 良雄さん(財団法人たんぼの家)

### (第2分科会)

放射能汚染とそれに関わる風評被害などの現実から、差別と排除について考える。

パネリスト

川瀬 俊治さん(フリージャーナリスト)

辻本 正教さん(部落解放同盟奈良県連合会)

平井 啓三さん(NHK 奈良放送局)

コーディネーター

大寺 和男さん(奈良県人権教育推進協議会)

### (第3分科会)

被害の現実から人と人とのつながりの大切さを学び、復興に向け今後どのようなまちづくりが求められるのかを考える。

パネリスト

寺川 政司さん(近畿大学建築学部)

刈谷 忠さん(岩手県 児童養護施設大洋学園)

滝口 俊二さん(NPO 法人森の月人)

コーディネーター

成田 進さん(奈良県市町村人権・同和問題「啓発連協」)

### (第4分科会)

震災被害、原発事故から自然との調和・共存を大切に生活について考える。

パネリスト

村上 真平さん(福島県飯舘村なな色の空)

福岡 定晃さん(NPO 法人山野草の里づくりの会)

川口 由一さん(赤目自然農塾)

コーディネーター

伊藤 満さん(部落解放同盟奈良県連合会)

※フィールドワーク

桜井市内の人権ゆかりの地探訪(分科会と並行実施)

集合・出発 9:00 帰着予定 12:00

講師:奈良県立同和問題関係史料センター研究員(要申込)

問合せ・申込:実行委員会事務局/(財)奈良人権・部落解放研究所(TEL0742-62-5179、FAX0742-62-8609、Email:kenkenkyu@yahoo.co.jp)

※当日券あり

※チケットはほっとねっと(TEL/FAX0742-94-6800、Email:npohotnet@yahoo.co.jp)でも取扱中。